

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年12月)

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。
- インフルエンザ・感染性胃腸炎は例年より報告数が少ないです。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈12月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
つつが虫病	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	16件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O26が2件(うち1件が無症状病原体保有者)の報告がありました。
- E型肝炎: 無症状病原体保有者1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- つつが虫病: 1件の報告がありました。神奈川県内での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。水系感染が推定されています。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者2件、その他2件の報告がありました。いずれも男性で、感染経路はいずれも性的接触(同性間3件、異性間および同性間1件)でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が2件、70歳代の報告が2件ありました。感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件の報告がありました。性別は男性13件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が15件(異性間9件、同性間2件、詳細不明3件)、不明2件でした。
- 百日咳: 10歳未満1件(ワクチン接種歴4回あり)、10歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

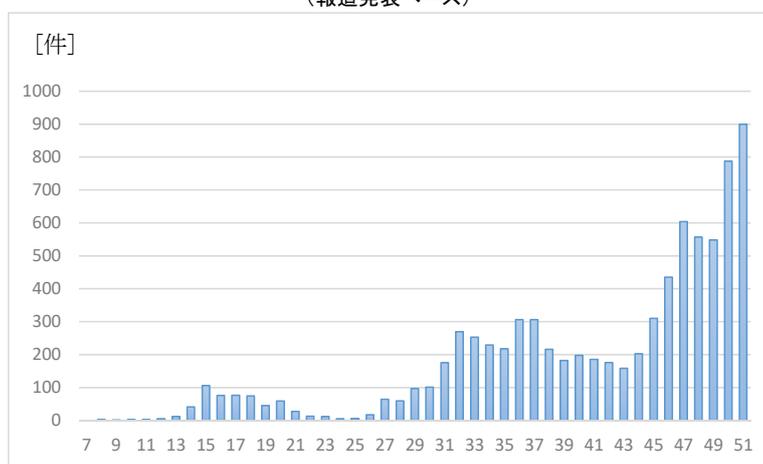
### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第47週～第51週に横浜市から報道発表のありました症例は3396件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)

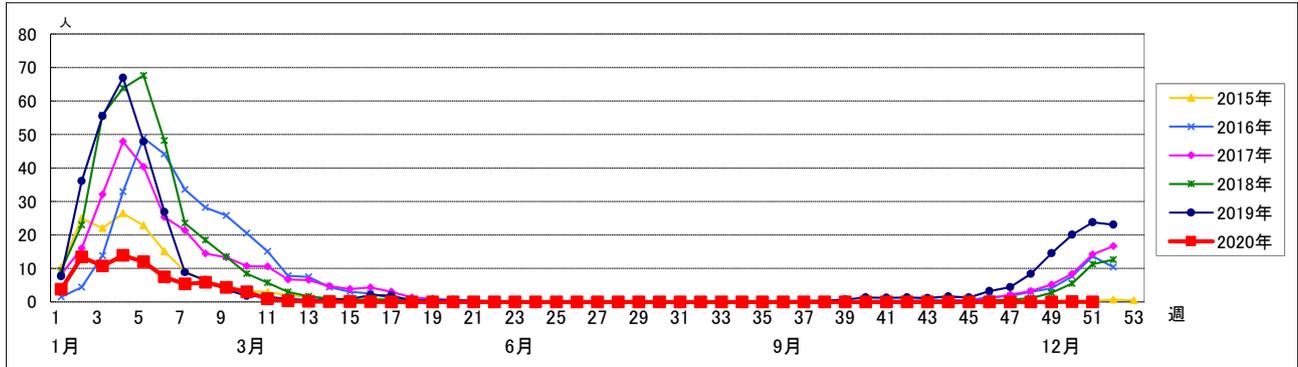


[週]

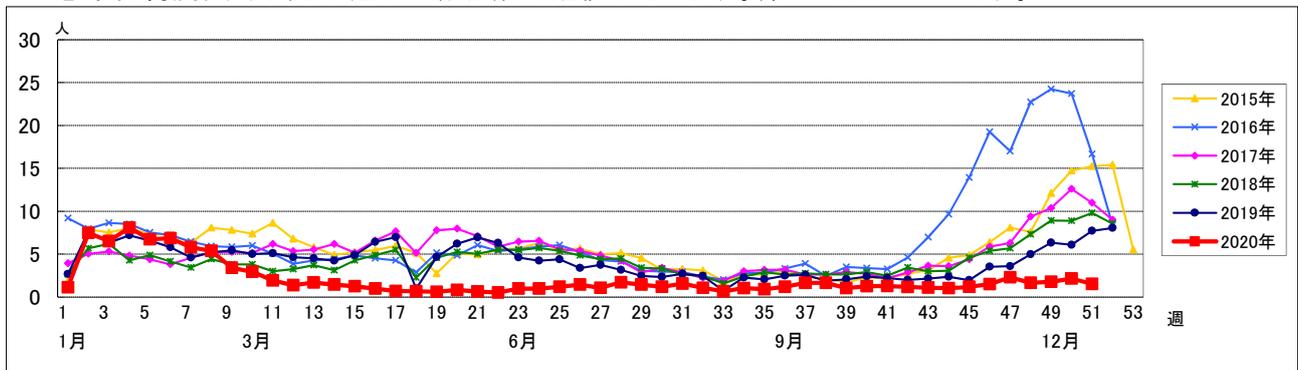
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第47週	11月16日～11月22日
第48週	11月23日～11月29日
第49週	11月30日～12月6日
第50週	12月7日～12月13日
第51週	12月14日～12月20日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第51週は0.02です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第51週は1.51です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:0件	女性:4件	淋菌感染症	男性:7件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

11月23日から12月20日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点1件、眼科定点1件、基幹定点3件でした。

ウイルス分離2株及びライノウイルス遺伝子5件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果12月期(2020年第48週～第51週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	無 呼 吸 発 作
アデノ 3型	1 —		
エコー 11型	1 —		
ライノ	— 2	— 2	— 1
合計	2 2	— 2	— 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

12月期(2020年第48週～第51週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、サルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、非結核性抗酸菌(NTM)2検体の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌4件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からマイコプラズマ1件、非定点からリケッチア2件の検査依頼がありました。保健所からは、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第48週～第51週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
基幹定点		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Panama (1)
医療機関		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)
	非定点	劇症型溶血性レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)
		非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)
保健所		腸管出血性大腸菌	4	O91 : H+ VT1 (1)、 OUT : H- VT2 (1)、 O128 : H45 VT2 (1)、 O26 : H11 VT1 (1)
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
基幹定点	髄液(1)	マイコプラズマ	1	<i>Mycoplasma pneumoniae</i> (PCR) 陰性 (1)
医療機関	非定点	血清(1)・ 痂皮(1)	リケッチア	<i>Orientia tsutsugamushi</i> (nestedPCR) Kawasaki 陽性 (1)、陰性 (1) 紅斑熱群リケッチア 陰性(nestedPCR) (2)
保健所	喀痰	レジオネラ	2	不検出 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】